横浜平沼高校が創立125周年

パシフィコで記念式典　約3100人が参列

横浜駅西口の近くにある神奈川県立横浜平沼高等学校が創立125周年を迎えた。11月7日にパシフィコ横浜で記念式典が盛大に行われ、生徒や保護者、同窓生ら3千人以上が参加。当日の式典の様子とともに県下初の高等女学校からスタートした同校の歴史を振り返る。

記念式典は学校、PTA、真澄会の三者による実行委員会（皆藤慎一実行委員長・62期）が、2年にわたって準備を進めてきた。当日の司会進行は、同校卒業生でアナウンサーの柴田博さんと羽鳥慎一さんの〝元野球部コンビ〟が務めた。

式典の第1部は「伝統」を意識した厳かな雰囲気のなか開催。小島由美校長は「伝統とアイデンティティを守り続けながら、これからの社会をたくましく生き抜くグローバル・リーダーを育てていくことが本校の使命」とあいさつ。生徒代表として登壇した創立125周年記念生徒実行委員会委員長の古川翔琉さん（3年）は「一人ひとりの中で生きている学校生活での記憶が歴史や伝統、未来を創り上げていく力である」と述べた。

▲「学びの灯火　次なる世代へ」のキャッチコピーで行われた式典

その後はニュースキャスターの吉川美代子さん（70期）、落語家の柳家小せん師匠（河野重信さん・90期）のビデオレター上映や、記念ビジュアルデザインの表彰も。第1部の最後は会場全員で、伝統ある校歌を斉唱した。

第2部は吹奏楽部の華やかな演奏でスタート。テレビ番組さながらの盛上がりとなったクイズ大会やダンス部のパフォーマンスなど、現役平高生がステージ上で躍動し、「未来」を感じる構成に。母校での思い出話を語る先輩座談会では、高校生からはOGのエピソードが次々と飛び出し、終始会場が笑いに包まれていた。式典のフィナーレでは再び吹奏楽部が登場し、それにあわせたダンス部の踊りや会場が一体となった手拍子で、大盛況の中締めくくられた。

▶三代目となる現校舎は1992（平成4）年の完成当時、県立高として最新鋭の設備で話題に。伝統を受け継いだ意匠性の高さも特徴だ

同期数人と一緒に会場に訪れたという卒業生は「すごく楽しかった。『やっぱり平沼』と誇らしい気持ち。現役平高生たちのパワーも感じた」と話していた。

歴史と伝統受け継ぐ

同校は1900年に「神奈川県立高等女学校」として認可された。5月5日に開校記念日と定められた。以来、女子校として50年、戦後の1949年に男女共学の「神奈川県立横浜平沼高等学校」として75年の歴史を積み重ねてきた。そして1954年から80年まで行われていた「平沼・翠嵐体育対抗戦（平翠戦）」が昨年、両校の周年にあわせて44年ぶりに復活。野球、サッカー、剣道に加え文化部まで発展。現役生や卒業生の試合が行われ、世代を超えた熱い戦いが繰り広げられている。

◇

県教育委員会の「学力向上進学重点校エントリー校」である同校。「人間性豊かで創造力に富み、指導的な役割を果たせる人間を育成する」を教育目標に掲げ、長年培ってきた歴史と伝統、そしてのびやかな校風や歌い継がれている校歌に宿る精神は、次の150年に引き継がれていくだろう。

▲一期生卒業写真より女子生徒と先生 1903（明治36）年

卒業生インタビュー

野球部の経験が今に

フリーアナウンサー・羽鳥慎一さん（86期）

司会を務めるテレビ朝日の情報番組「羽鳥慎一モーニングショー」は今年の10月で放送開始10年を迎えた。自らの名が付く番組に「責任とやりがいが隣り合わせ」という。意識するのは、アナウンサーの大先輩である徳光和夫さんから教えられた「出過ぎず、引き過ぎず」。全体のバランスを見ながら番組を進行しつつ、自分の存在感はなくさないように、番組を司る役割として、視聴者との距離感を大切にしている。

真面目過ぎるエース

埼玉県で生まれ、小学1年で保土ケ谷区に移り住む。権太坂小に通い、3年から地域のソフトボールチームに所属。境木中、平沼高と野球部に所属し練習に明け暮れ、エースとしてチームを引っ張った。

学校の隣にある岡野公園で、監督に「終わり」と言われるまで走り続ける〝無制限ランニング〟は思い出深い。「試合終わりに他の部員がノックやっている間に1人で走るんですが、監督に忘れられたみたいで。みんな練習が終わって帰っていくのを見て、あれ？って。1時間半位走り続けたかな」。真面目に取り組んだ成果か、3年最後の夏は、強豪揃いの県大会で公立高校にして4回戦まで勝ち進むという快挙を成し遂げた。

平沼高の思い出

野球部エースに加えて長身、甘いマスク、優しい性格。ものすごくモテたのではと聞くと「クラスの人気者ぐらいまではいっても、そこは坊主頭の限界。結局モテるのはサッカー部なんです」と照れ笑い。また、学校の校舎については「卒業後に建て替えられたので今とは異なりますが、アーチ型の天井や飴色になった手すりなど、歴史のある場所で勉強しているんだなと思っていました」

平沼高校は横浜駅すぐの立地だが、放課後を楽しめたのは3年の引退後。「横浜駅西口のピザの食べ放題（シェーキーズ）に初めて行って、こんな楽しい場所があるんだって思いました。平沼高校の立地の良さを、卒業間近でようやく知ると言う…。服をビブレで買うと、男子は絶対、誰かと被っていましたね」

アナウンサーの道へ

一浪して早稲田大学に入学。「楽しいことを仕事にしよう」と就職先を考えた時、頭に浮かんだのは高校時代に没頭した野球だった。「練習は確かに辛かったけれど、平沼の部活が本当に楽しかった」。テレビも好きだったことから、野球の実況アナウンサーを夢見て日本テレビへ入社。恩春期だった中学時代は「笑ったところを見たことがない」と言われたほどで、「『しゃべる仕事で大丈夫？』と同級生から心配されました」と笑う。野球実況の夢が実現し、スター選手を間近にワクワクした気持ちで仕事ができた一方、「選手の資料の準備や緊張の連続で全然楽しめなかった。実況担当を外れた時『これでビール飲みながら野球が見られるって思いました』」と振り返る。

同窓生の「絆」

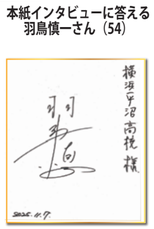
平高生は各界で活躍する著名人も多いという。「同じアナウンサーの堀潤さんは後輩。女子校時代の大先輩だと草笛光子さんや岸惠子さんも。草笛さんにお会いした時『あなた平沼よね』って声をかけていただいて。全く世代が違っても平沼というだけでつながれる、歴史ある同窓生の絆を感じます」。自身も夏の大会に駆け付け、後輩を応援している。

「同級生や先輩後輩、先生やコーチ、学生時代に出会った人はその後の人生で長く助けてくれる存在になっています。これからも出会いを大切にしていきたいです」

本紙インタビューに答える羽鳥慎一さん（54）

プロフィール

小学生の頃、埼玉県から横浜市保土ケ谷区へ。権太坂小、境木中、横浜平沼高出身。早稲田大学経済学部経済学科卒業後、日本テレビに入社。朝の番組や人気バラエティ番組の司会、プロ野球中継の実況などを務め、2011年4月からフリーアナウンサーに転身。その後「モーニングバード」、15年10月から「羽鳥慎一モーニングショー」（テレビ朝日系・平日8:00～9:55）の総合司会に。出演番組は「ぐるぐるナインティナイン」など。モットーは「限界を作らない」。趣味は「テレビとスポーツ観戦」。「横浜のザ・ごちそう」と断言するハングリータイガーは思い出の味



こぼれ話　当時大学生で野球部OBとして監督を務めた吉野哲也さん（82期）

試合に負けると「自分のせい」と泣くほど落ち込むので、彼にだけあえてハードトレーニングをさせました。おかげで羽鳥ファンの女子たちからは「いじめてる」って悪者扱い（笑）。優しすぎて（デッドボールを恐れ）インコースも投げられなかったんです。無制限ランニングも覚えてます。あの時はマネージャーがまだ走らせるんですか」と血相変えてきて、言われた通りずっと走っていたのかと。本当に真面目を絵に描いたような生徒でした。後にベイスターズで活躍する鈴木尚典選手から2打席連続三振を奪ったことも。

平沼高校125年の歴史

- 1900（明治33）年　10月　神奈川県高等女学校設立認可（10日）
- 1901（明治34）年　5月　第一回入学式（1日）開校式（5日）　神奈川県立高等女学校と改称　授業開始（7日）
- 1902（明治35）年　4月　師範学校女子講習科付設
- 1903（明治36）年　4月　補習科設置（～1922年廃止）
- 1907（明治40）年　1月　神奈川県女子師範学校創設　本校に併置
- 1910（明治43）年　4月　神奈川県女子師範学校附属小学校開校
- 1923（大正12）年　9月　関東大震災　部を除き校舎倒壊　附属小学校焼失
- 1924（大正13）年　11月　仮設校舎で授業開始
- 1927（昭和2）年　3月　神奈川県女子師範学校分離
- 1928（昭和3）年　10月　二代目校舎完成　落成式を挙行
- 1930（昭和5）年　4月　神奈川県立横浜第一高等女学校と改称
- 1943（昭和18）年　横浜大空襲　焼失を免れた校舎本館は救護病院となる
- 1945（昭和20）年　3月　5年生と共に4年生を繰り上げ卒業
- 1946（昭和21）年　10月　終戦後の授業再開
- 1947（昭和22）年　2月　修業年限が5年に戻る
- 1948（昭和23）年　4月　新制中学発足に伴い、2年、3年生は神奈川県立横浜第二高等女学校併設中学生徒となる
- 1949（昭和24）年　1月　通信教育部併置
- 1950（昭和25）年　4月　学制改革により神奈川県立横浜第二女子高等学校となる
- 1951（昭和26）年　4月　神奈川県立横浜幼稚園開設
- 1961（昭和36）年　4月　神奈川県立横浜平沼高等学校と改称　男女共学実施
- 1990（平成2）年　4月　通信教育部を通信制課程と改称
- 1990（平成2）年　3月　新校舎建設のため清水ケ丘仮設校舎に移転
- 1992（平成4）年　3月　県立横浜幼稚園閉園
- 2000（平成12）年　3月　三代目校舎完成　落成式典を挙行
- 2010（平成22）年　6月　先輩セミナー開始
- 2020（令和2）年　4月　創立110周年　記念誌発行
- 2020（令和2）年　10月　創立100周年記念音楽式典
- 2003（平成15）年　神奈川県立保土ケ谷養護学校横浜平沼分教室開設
- 2020（令和2）年　4月　創立120周年　記念誌発行
- 2025（令和7）年　11月　創立125周年記念式典を挙行

思い出話に花咲く

「声の職業」3人が座談会

左から柴田さん、羽鳥さん、千葉山さん

司会進行を務めたABC朝日放送のアナウンサー・柴田博さん（84期）とフリーアナウンサーの羽鳥慎一さん（86期）、会場アナウンスを務めた演歌歌手の千葉山貴公さん（94期）の3人による座談会が催された。

野球部OB元監督で同校前副校長の吉野哲也さん（82期）がファシリテーターを務め、野球部だった柴田さんと2年後輩だった羽鳥さんと共に、野球部時代の話に花が咲いた。同じ野球部から同じ野球実況を夢見てアナウンサーの道に進んだという2人が、互いの経歴を比べる場面も。柴田さんが「全部君（羽鳥さん）の方がちょっとずつ上回ってるんだよな」などと冗談を飛ばし、会場の笑いを誘っていた。

一方、最年少の千葉山さんは「高校時代に横浜駅のCDショップでやっていた演歌歌手のリサイタルを聞きに行っていた」と今につながるエピソードを話した。

「自由な校風だった。今びのびとしゃべっている原点は平沼にある」と柴田さん。羽鳥さんは「125年続くのはすごいこと。どこに行っても平高生に会える」と誇らしげに語った。

世代を超えた絆と母校への深い愛情が感じられる座談会となった。

横浜西口CeeU Yokohama（旧ダイエー）前の「ラ・ポーズ広場」（フランス語で憩いの場）は「様々な人々が落ち着けるような素敵な場所になってほしい」という願いを込めて平沼高生徒が命名。

横浜駅西口のまちづくりに参加　地域に根ざす平沼高校

平沼高校の生徒たちは、横浜駅西口を中心とした周辺エリアの企業や商店街などで構成されるまちづくり団体「横浜西口エリアマネジメント」と連携した様々な活動を行っています

高校生が企画運営したイベントにも軽音部やダンス部など多くの平沼高生が参加！

平沼高生をはじめとする近隣高校生のまちづくりチーム「FP TEENS」の拠点

【定例活動】
毎週水曜16:30～18:30
飛び入り参加や見学もOK

清掃活動
地域住民らと一緒に参加。生徒たちからは「いつも通学路で利用している街がきれいになるのは自分の気持ちがよい」「街に対する意識が変わった」などの感想がありました。

エリマネと合同で生物研究部の生徒が帷子川の生物・水質調査を行っています。
合同調査

キラリ輝く！未来担う平高生たちが活躍

再びの全国大会への出場、県大会での優勝をめざして、部員主体で作品作りに励んでいます

ダンス部

オーケストラ部　学校行事で演奏する中で、仲間と音を合わせる楽しさや成長を実感しています。

合唱部　仲良く楽しく歌ってます！一緒に歌いたい平高生大募集！

吹奏楽部
2025年度 創部初 神奈川県吹奏楽コンクール金賞
神奈川県代表　東関東大会出場!!

クイズ大会
生徒や先生、真澄会、PTAのチーム対抗戦で行われたクイズ大会。平沼高にまつわる問題に大盛り上がり

会場ロビーでは学校史パネルや歴代の制服の展示が行われ、賑わっていた

神奈川県立横浜平沼高等学校
Yokohama Hiranuma Senior High School
2025創立125周年　おめでとうございます　―順不同―

渡口　彦邦　（54期）
伊藤　玄二郎（59期）

株式会社川島商会
代表取締役　川島 辰雄（80期生）
LPガスの販売店です！
横浜市旭区今川町5番地15号　☎045-364-2515

学校法人南白ゆり学園
南白ゆり幼稚園
理事長　戸井 浩（高68期）
横浜市南区六ツ川3丁目4-23
☎045-711-2903

交通事故、相続・遺言、離婚、借金・債務整理、刑事、労働、不動産、借地借家、会社法務、詐欺中傷 等
ベイアヴェニュー法律事務所
神奈川県弁護士会所属　弁護士 佐藤 隆志（98期）
〒231-0007 横浜市中区 井筒ビル7階 アトム関内ビル6階
TEL.045-319-4486　E-mail:t-sato@bay-ave.jp
真澄会の方 初回相談料30分無料

横浜駅西口振興協議会
一般社団法人横浜西口エリアマネジメント
創立125周年を迎え、心よりお祝い申し上げます。今後のますますのご繁栄とご活躍をお祈り申し上げます。

SHERATON
Yokohama Bay Hotel & Towers
https://ybsh.sotetsu-hotels.com/

祝　県立横浜平沼高等学校　創立125周年
神奈川県立横浜平沼高等学校同窓会　真澄会

創立125周年おめでとうございます
CREATE & LIVE TOGETHER
株式会社谷川商店　代表取締役　谷川 公一
〒221-0835　横浜市神奈川区鶴屋町2-24-1　谷川ビルディング TEL 045-311-0547

「ラ・ポーズ広場」と24の専門店がお待ちしています。
詳しくは CeeU Yokohama で検索
CeeU Yokohama
横浜駅みなみ西口徒歩5分　パルナード通り沿い

創立125周年おめでとうございます
NEWoMan YOKOHAMA
〒220-0005
神奈川県横浜市西区南幸1-1-1
TEL.03-5334-0550
（ルミネ・ニュウマン総合コールセンター）
ニュウマン横浜 公式Instagram►

人を見つめ、暮らしを照らす
株式会社日向建設
〒247-0056 鎌倉市大船1-15-3
0120-87-5454

創立125周年おめでとうございます
OFFSIDE INCORPORATED
株式会社オフサイド
代表取締役　伊藤 斉
〒220-6218　横浜市西区みなとみらい2-3-5 クイーンズタワーC 18階　TEL 045-661-0622

県立横浜平沼高等学校
祝 創立125周年
I's ICHISYO
株式会社イチショー　取締役　市澤 洋
［本社］横浜市港北区新横浜3丁目18-5　I's ビル8階

祝 県立横浜平沼高等学校　創立125周年
新築戸建分譲・宅地分譲・リノベーション住宅
株式会社 さくら総合地所
代表取締役　山本 優一郎　95期生
［本社］横浜市中区日本大通7番地 日本大通7ビル 2階
TEL.045-306-9710

校史音楽劇
母校史・校歌をベースにオリジナル脚本・楽曲で企画。音楽劇を開催します。今後詳しい内容→
日時：2026年3月15日（日）@西公会堂
後援：神奈川県教育委員会・横浜市芸術文化振興財団・西区

学びの灯火 次なる世代へ

創立125周年記念キャッチコピー
若目田道大さん（3年）

創立125周年記念ポスター審査グランプリ受賞
中西結瑞さん（122期）

ポスター審査委員長
伊藤有壱さん（78期）
東京芸術大学大学院教授

校歌

佐佐木　信綱　作詞
幸田　延　作曲

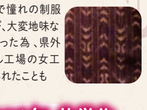
学びの道にいそしむは
我らが日々のつとめなり
み空に匂う富士の嶺は
我らが胸のかがみなり
百船千船つどいよる
港の栄えきわみなし
栄ゆる春を迎えつつ
み国の花と咲き出でむ

高等女学校時代から歴史感じる制服の変遷

学校内の「歴史資料展示室」制服展示コーナーより

初代
1901（明治34）年～1915（大正4）年
初代校長が全国に先駆けて、「洋服または短袖、茶袴」と規定。袂（たもと）がなく袖口をつぼめた洋服のような「筒袖」が当時男の着るもののようだと評判が悪かった

二代目
1915（大正4）年～1930（昭和5）年
着物の柄は神奈川の「神」と女学校の「女」を図案化したもの。県内では県立高等女学校の象徴で憧れの制服であったが、大変地味な色・柄であった為、県外ではビール工場の女工に間違えられたことも



1950年（昭和25）年、共学化
1955（昭和30）年、女子は現在の制服になる

当時の体育着

洋装初代
1930（昭和5）年～1949年（昭和24）年
紺のサージ、シングルの上着にジャンパースカート。現在の制服のジャンパースカートより襟ぐりが丸みを帯びている

男子の標準服は詰襟

夏服
1973（昭和48）年
デザインと生地の質は、昭和初期の体育着と似ている